

- 1 教育事業名 「いきいき自然体験キャンプ」
- 2 ね ら い 自然あふれる渡嘉敷島において、火起こしやテント泊などに挑戦する。キャンプを通して感じた刺激や様々な活動への挑戦や成功体験が児童の自生徒の自身につながり、今後の生活においてよいきっかけとなることを期待する。
- 3 期 日 令和6年9月3日(火)～5日(木) 2泊3日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家 キャンプ場及び本館
- 5 募集定員 県内適応指導教室に通う児童生徒 25名程度 引率教諭10名程度
- 6 参加人数 児童生徒22名 引率14名 合計36名
- 7 参加者内訳 小学生2名 中学生20名
- 8 講 師 照屋 寛信 氏 (手作り遊び工房 ふぁーかんだー)
森 有紀子 氏 (NPO 法人 海 of 自然史研究所)
大城 敏 氏 (パドリングガイド 漕店)
米田 英明 氏 (琉球新報社 渡嘉敷通信員)
一般社団法人 沖縄ウォーターセーティ協会

9 実施プログラム

令和6年9月3日(火)～5日(木) 2泊3日

時間	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00			
3日(火)	9:00から乗船開始 (とまりんターミナル)			フェリー	受付 移動	弁当 (持参)	開 講 式	海洋研修		シャ ワ ー	テ ン ト 設 営	野 外 炊 事		片 付	振 り 返 り	入 浴	就 寝	
4日(水)	起床・準備 テント底上げ	朝 食	準 備	アリガーチャレンジ カヌーで移動 到着後は、スノーケリング		移 動	弁 当	海洋研修 カヤック スーパーフロート		シャ ワ ー	テ ン ト 撤 収	本 館 へ	入 所 OR	夕 食	入 浴 ゆ と り の 時 間	灯 り の 時 間	振 り 返 り	就 寝
5日(木)	起床 準備	つ と い	朝 食	清 掃 C H	ク ラ フ ト	弁 当	平 和 学 習	閉 校 式	港 へ 移 動	フェ リ ー 乗 船	フェ リ ー		到着後、教室ごとに解散。 まためんそーりやー					

※日程および内容については、都合により変更になる場合があります。延期日程:9月25日(水)～27日(金)

10 事業の様子



オープニング



大型カヌー体験



スノーケル体験



テント設営



野外炊事



野外炊事②



カヌーで安室島へ



安室島でスノーケリング



昔語り



東展望台からの朝日



クラフト作成



平和学習

11 参加者の声（アンケートより）

- ・テントを組み立てるのは難しかったけど楽しかった。
- ・子ども達の自主的に動く姿を見ることができてうれしかった。（野外炊事）
- ・カヌーは疲れたけど安室島に着くと達成感があった。チームワークの大切さがわかった。
- ・照屋先生の優しくユーモアのある語りがとても良かった。（灯りの時間）
- ・めっちゃ楽しかった。小さい魚をたくさん作った。次は鳥を作りたい。（クラフト）
- ・戦争のことについて改めて考える機会になった。（平和学習）
- ・様々な体験を通して子ども達が少し頼もしく成長したように感じた。

12 担当者所見

（1） 成果

- ・事後アンケートから子どもたち自身が様々な活動に対する挑戦に達成感を感じている様子が見られた。
- ・引率教師からも日頃教室では見ることが出来ない子どもの姿を見ることができたコメントがあった。
- ・荒天により、アリガーから安室島へ行き先を変更した。当日朝の変更となったが、安全面や体力面などを配慮した上でスムーズに進行することができた。
- ・クラフト、スノーケル、大型カヌーにより無人島上陸など様々な活動を講師、医療スタッフ、引率教師の協力の下、充実させることができた。
- ・他の事業と比較しても、参加児童生徒の変容を見ることが出来る事業だと感じた。費用、引率の教諭の負担、天候への対応など労力を要する事業ではあるが、適応指導教室へ通う児童生徒のきっかけづくりのため継続して開催していきたい。

（2） 課題

- ・事前に各教室と連携を図り参加者の様子を把握し、可能であれば他の教室の参加者との交流を図る場面を設定できると良いと感じた。
- ・荒天により、予備日での開催を検討したが、予備日と学校行事等と重なる教室があり参加できなくなるとの意見があった。
- ・参加児童生徒、引率教諭の費用を負担する市町村もあるため、予算請求のため今年度中に次年度の予算を伝える必要がある。次年度に向け、予想される一番高額な参加費を各教室に伝えている。